

「学生による授業評価調査（授業調査）」に関するメモ

1. 学生による授業評価調査の目的

- ①教育改善（授業改善とカリキュラム改善）
- ②アカウンタビリティ（大学評価）

2. 学生による授業評価調査の特徴

<長所>

- ①数値データが得られるので、様々な比較がしやすい
（評価項目間比較、学期間（時系列的）比較、科目間比較、教員間比較、等）
- ②数値やグラフで表現できるので分かりやすく、アカウンタビリティ遂行に適する

<短所>

- ①具体的な授業改善策が得られにくい
- ②評価が安定してくると、マンネリ化しやすい
- ③学期末に行われるので、回答者は授業改善の成果を享受できない
- ④データの背景情報が捨象されているため、データの一人歩きが起こる可能性がある
（学生による評価は、教員の教育能力以外の様々な要素によって左右される場合がある）

3. 学生による授業評価調査の活用方法

- ①各教員が授業改善に役立てる
 - ・各項目の得点を比較し、自分の長所・短所を見出す
 - ・他の教員の評価と比較し、自分の長所・短所を見出す
 - ・以前の評価と比較し、授業改善の工夫が成功したか否かを確認する
 - ・自由記述欄に書かれた学生の要望を知り、必要に応じてそれに対応する
- ②系列において授業改善およびカリキュラム改善に役立てる
 - ・シラバス検討会の際に、一つの検討材料にする
 - ・学生による評価が高い科目を抽出し、その授業の良い点を他の科目にも広める
 - ・カリキュラム改訂の際に考慮する
- ③系列の教育の質を保証するために役立てる
 - ・自己点検評価報告書等で、系列カリキュラムの長所・短所を考察し、改善策を示す

4. おわりに

- ・学生による授業評価調査は、現在の日本の大学においては実施するのが当然の流れ
（それを実施しない場合は、特別な理由が必要）
→ 実施率が低いと、教育改善とアカウンタビリティの意識が低いと評価される
- ・学生による授業評価調査は、上記の短所もあるので、他の方法と併用する必要がある
（毎回授業でのコメントカードの利用、シラバス検討会での各科目の背景情報共有、等）